

【優秀賞】

【諸刃の剣「水」】

扶桑町立扶桑中学校 3年 真野 聡真

二十九年六月、オーストラリア南東部で森林火災が発生した。その火災は、日を重ねることに悪化し、同年九月にはオーストラリア全域に及ぶ大規模森林火災へと発生したのだ。その被害は凄まじく、類焼面積は十万七千平方キロメートル以上、建物被害は五千九百棟以上、死者は二十九名にまで拡がった。更に、オーストラリアに生息する貴重な野生動物は十億を超える生命が失われたと推定された。雄大な自然を壊し、多くの尊い命を奪った森林火災の様子は世界各国で報道がなされ、私も幾度か目にした。多くの犠牲者、犠牲動物を出し、人々を日々不安や心配に追いやった火災を収めたのは、意外なものだった。それは、シドニーで起きた三十年ぶりの豪雨であった。一瞬疑ってしまふような話だが、これは紛れも無い事実なのである。実際衛星画像を確認すると、東部を中心に赤く見えた火災箇所も、劇的に減っていることが分かる。つまり、空から降ってきた水の恵みにより、甚大な火災を食い止め、鎮火への大きな兆しを私達に示してくれたのだ。古く昔から雨という空からの恵みは、人々の生活を支えてきた。そして時に、このように人々を救ってくれることを身に染みて感じ、私は深く感銘を受けた。

しかし、雨は常に私達の味方であるとは限らない。二十九年九月、関東や東北を中心に猛烈な被災をもたらした台風十九号が上陸した。この台風により、各地方に記録的な大雨が降った。この雨は、前述の「恵み」の大雨とはまるで違い、人々の普段の生活をも揺るがす「化物」の大雨であった。それに伴い、河川の水の量も溢れんばかりに増えた。そんな不安に包まれた中、私はただテレビで放送されるニュースを見ることでしかできなかった。すると速報で、

「関東甲信越のダムで緊急放流が開始される。」
という報道がなされた。私の不安は一気に増し、直ぐに報道の内容について調べた。落ち着いて説明を読むと、

「ダムに流れてくる水の量が危険水準に達すると、その量と同じ量を下流に流す法律に基づいた操作。」
とあった。私は河川の水量が異常に増えても適切に対応できるよう定められていたことを知り、とても驚くと共に安堵した。

一方で、雨による被害は、大雨に限ったことではない。同年春に、例年のような降雨が無かったことから、愛知県と静岡県に水を供給する豊川用水の水がめ、宇連ダムの貯水率がゼロパーセントとなった。ダムの貯水池には、湖底がはつきりと見え、ダム湖に沈んでいた橋が見えるなど深刻さを物語っていた。供給される水を失った人々はこの先どのような生活していくのか、そう思い関連記事を探すと、

「隣にある天竜川から水をひき、佐久間導水を利用して水を確保する。」と書かれていた。普段は想像できない渇水の状況を前提とし、対応策ができたがっていたのだ。これには私も声をあげて驚嘆した。

このように、雨がもたらす「大雨」と「渇水」の被害は毎年大きな爪痕を残していく。しかし、私達の知らない所で、最善の対策が練られ、最善の対策がなされていることを知り、水害が抑えられていることや安定して水が供給されることに改めて感謝しなければならぬと実感した。前述の如く、人々の生活を支え、人々の命を守る水は諸刃の剣。一人一人が意識して水と向き合っていかなければならない。今私達ができることは、水について知ること。これからも私達は水の恩恵を受け、命の源「水」と共に生きていけることを、切に願う。